

「松本市文化芸術振興審議会」第5回審議会の議事概要

- 1 日時 平成27年10月21日（水）午後1時30分から3時30分まで
- 2 場所 大手会議室A（大手事務所6階）
- 3 出席者 （委員） 笹本会長、花輪副会長、山根委員、小松委員、宮嶋委員、瀧沢委員、倉澤委員、小澤委員、辻本委員、佐久間委員
（事務局） 久保田文化振興課長、原文化振興課課長補佐、村井文化振興課係長、小林主査
- 4 議事等
 - （1）開会
 - （2）配布資料説明
 - （3）議事

【文化芸術振興施策の総合的な推進に関する論点】

——事務局より「協働・創造発信型事業、総合的な文化芸術振興施策の推進」及び「文化財の保護・整備・活用」の説明——

（委員）

- 現状で行われているセイジ・オザワ 松本フェスティバル（以下、OMFという。）、大歌舞伎、クラフトフェア、まつもと市民芸術館創造・発信型事業と、松本の大きな4つのイベントを一同に並べて費用対効果を見ることがなかったので、大変いい資料だと思う。ただ、尺度がみんな違う。
- 説明を加えると、工芸の五月は大体500万が交通対策で残り400万円が企画と広報など。クラフトフェアはクラフト推進協会が単独の予算でやっていて、無償のボランティアのおかげで年間600～700万という少ない予算でできている。クラフトフェアは2日間のお祭りなのでいいが、通年で行うものはボランティアという現状では今後続けていられない。尺度の違いを整理すると、OMFや大歌舞伎は小澤さんや串田さんといった有名なプロデューサーがいて、場として松本が使われ、運営とかホスピタリティのところで市民が関与している。クラフトフェアや工芸の五月は企画運営からすべて市民や松本に関わりのある人たちが行っている。普通は東京でやるようなことを松本から発信しているというところはそれなりに意味がある。音楽では、今回2014年は二山さんという稀少な人材が出て賞を取ってSKOとコラボができた。これから松本でどういうものを育てていきたいのかを基本方針に入れると、暮らしの中の文化という側面、文化的な視点、感性が育っていく構図ができてくる。
- イベントは、支払われた税金に対してどれだけの市民参画があったかが重要だと思う。いいことをやっているからいくらお金がかかってもいいという発想では困るし、多くの市民が参加しないということの持つ意味は何か。また、同じレベルの他の市では芸術文化にどのくらいの

予算をかけているのかが比較できると松本の特性が見えてくる。

- 現状は興味の湧くイベントがない。何に興味があるのかは人それぞれだが、多くの人に興味を持ってもらおうと思ったら、値段を下げるなり演目を替えるなりしないと行かない。
- 「検討する」「議論する」という表現は基本方針として適切なのか。「実行する」のような形にしないと考えるだけのものになってしまう。
- 今までどう評価してチェックしてきたのか。基本方針を作ったら、それが実行されているかいないかを後の人たちがチェックできるようにしたい。
- OMFの県内の小学校対象の音楽会が小学校6年生というのは何故か。小学校の金管バンドは3年生から始まるのでそのくらいの子どもたちにも聞かせてあげたらいい。
- 現在すでに、ある程度の市民が関わっているという事業を、どうやったら一般の人にも来てもらえるかを落とし込んで具体的にしていくのはどうか。
- 外から人が来るというのは良いこと。一回に2割の市民が来ていて、それが20年続いていると24万人の市民がひとり一回は来ていることと同じ。ビジネスのキーになる人も松本には来ている。サイトウキネンのオープニングパーティでは、せっかく同じ場に集まっているのに、市民と関係者とプレイヤーが分かれてしまっていてコミュニケーションがなかった。そういう場に接点を興していくのも大事。言葉の壁もあるのでそれをサポートする誰かがいたほうがいいので、それを市が支援するというのも面白い。
- 松本の文化イベントはすべてが専門に特化したもので、専門の人たちに向けて専門のものを見せているものなので、一般の人は少ない。経済効果もあり全国的に発信しているが、問題になるのは市民との関わり。せっかくいいものを持っているので来た人たちと市民との接点を作ることと、一般的にもう少し市民に向けたものや市民が発表する場所を提供すること。外向きにはできているので今度は内向きに何をやっていくか。
- ここに書かれていないものをどれだけ拾い上げられるか。「幅を広げ市民の要望に沿うようにする」などの文言を入れるように進めたい。「市の政策と連動性をもちながら博物館・図書館に関わるものも考えていく」というような一文も入れたい。文化財に関わる部分は他計画に譲り基本方針では言及しないとあるが何か言葉を入れるべきではないか。
- 図書館は文化の発信として大切な場所。しかし無料で本をサービスする機能が充実していくと、本当に読みたいものにお金を出すことをしなくなるという反面がある。サービスだけが文化を育てるというわけではない。
- 図書館の意義の中で貸本事業はごく一部で、人が集まることや収書という色々な要素がある。
- この施策では、「何を協働するのか」というところが重要だと思う。ボランティアなどはかなり協働が進んでいるが、創造を協働するという部分はうまくいっていないので、そこをやっていくといい。

——事務局より「情報発信・各種制度等の窓口機能」及び「関係団体のネットワーク化、連携」の説明——

(委員)

- イベントはインターネットでチェックをするが、知らないものには興味が湧かない。情報発信にy o u t u b e等の動画を入れるなど、何か興味を持てる工夫をしていくといい。
- 情報発信に関して外向けと内向けで分けているか。

(事務局)

- 現状としてはほとんど分けていない。公民館に関しては回覧板など地区ごとでまわる情報は内向けと言える。

(委員)

- ウェブページの解析をしているか？どう見られているかを知りたい。
- 広報をするのであれば広報の手段を持っている人を入れるべき。SNSは、先方から来るものと欲しい人が打ち込んで情報を取りに行く形がある。使い分けも必要
- イベントに参加したいと思ってもどこで取り仕切っているかわからない。欲しい情報にたどり着くまでが遠い。連携を強化したら、他もうまくいくように思う。
- 広報がもっと広い視野で捉えると参加者の欲しい情報があると思う。
- 本市にはくるくるネット松本があるので、それを基にPDCAを回していく。見やすいHPを作ることがまず行政の始めること。景観でいえば、人目につくところに公共性のある文化の香りがするものを、市民にも外から来た人にもカッコよく見えるという広報をするということは大事だと思う。ひとつの課で話しても駄目で、他課や県などと調整して仕組みを作っていくといい。
- 市の広報に今のような課題があることだけは伝えて欲しい。
- ユネスコの「創造都市ネットワーク」への認定とは何か。

(事務局)

- 文化芸術を起点に新たな創造、産業が生まれ、都市の活性化につながるという考え方を「創造都市」と近年呼ぶようになってきている。松本市は平成26年度に文化庁の文化庁長官賞で文化芸術創造都市部門の長官表彰をいただいた。今、国内的にも創造都市ネットワーク日本ということが動いていて文化芸術による都市の活性化が行われ、情報を交換したりする交流する営みが動き始めている。今後世界と交流することで、創造都市として文字通り創造性豊かな形で都市が活性化していきたいという意味で、取組みとしてどこかに書き込みたい。

——事務局より「総合的な政策・方針の立案」について説明——

(委員)

- PDCAサイクルとは何か。

(事務局)

- 企業等の活動で、P l a n ・ D o ・ C h e c k ・ A c t i o nのサイクルをひとつの工程と

して進行管理を行うという考え方

(委員)

- 計画するときにチェックできるように計画する。実行して検証して改善、そしてまたプランに続くというように回していくこと。
- 文化芸術基本方針も作る時に状況をチェックしたり検証をする形にしていく。
- 「アウトカムとインパクトを意識した適切な評価手法について研究し、試行」について、具体的に想定をされているものか事例はあるか。

(事務局)

- 具体的に活用しているものは把握していない。2012年に文化庁の委託事業で「文化施策の評価手法に関する調査研究報告書」というものを出していて、どのようにアウトカム、インパクトを測るかという提案で、こちらの把握したい意図と設問の仕方が出ている。今後実際に松本に合う形を研究していかないといけない。

(委員)

- 評価に透明性がなければ、市民にはわからない。開示していくことも必要
- 質の良い悪いは誰が判断するのか。判断基準がわかるようにしておく。
- 飛騨高山の場合は市民主体なので、市民にどう浸透したか、どのくらい参加したかを外部委託で評価を出して、市民を集めて報告会をして承認してもらう。市民が文化芸術に接する機会を向上させるということは事業を行うひとつの条件である。松本の場合は市民との関わりを持つことを考えて、専門に特化したものだけでなく総合的に推進していく。高級な芸術とそうでないものはヒエラルキーがあるという感覚は取り払うべき。
- 多くの場合アンケートは、参加した人の意見を聞いて参加していない人の意見を聞かない。参加している人は好きな人なので良い意見しか出ない。今後はきちんと評価検証を行う方策を作っていく。

最後に「これらの取組みを総括する分野目標案」について

- 「創造から生まれる市民の誇り」のようなものが入るといい。ただ誇りを持ってではなく、自分たちがやっていることに誇りを持てる書き方で
- 文章が長いので分けてもいいと思う。
- 前回出ていた松本らしいキーワードは残した方がいい。
- 市民という言葉は大人をイメージする。子どもからお年寄りという表現にするといい。
- 目標という言葉と方針という言葉を整理たほうがいい。目標をいつまでに何をというところまで書くことを想定して書くといい。従来は実行したかどうかという評価だった。それぞれの事を検証していく、検証可能なことを検証していくことを繰り返していく。総合的な施策の推進を図ることで後半部分の文章に繋がっていく方が良い。
- 評価というところは誰が評価するのか。そういうところも市民にわかるようにしたい。